

誰かの労いになる一杯を届けたい／中村 隆史 さん

下川でのリアルな暮らしぶりを町内の方にお話ししていただくコーナー。今月は起業型地域おこし協力隊「シモカワベアーズ」として移住し、ブルワリーを開業した中村隆史さんです。



私は札幌出身で、もとは半導体エンジニアとして働いていました。市街地から離れた場所で、家庭菜園をしていたこともあり、いつかは会社員を辞めて農業をやろうと考えていて。新型コロナウィルスが流行り始めたのをきっかけに、本格的に移住先を探し始めました。新規就農の相談に乗ってくれるところに話を聞きに行く中で、下川町を知りました。

2021年の夏に、初めて下川町に下見に来ました。徒歩圏内に、役場や飲食店、病院や郵便局などがある、飲んだあと歩いて家に帰れるコンパクトさがいいなと思いました。

2021年度採用のベアーズの選考を終え、札幌から引っ越したら、いろんなことが転がるように進んで行きました。地域の素材でお酒を造りたいとは思っていたので、



その素材を集めるために町内の方を紹介していたり、お酒を造る工房と店舗を構える物件を探したり。物件については、地域の方が私たちが移住してきたことを知り、オーナーさんに話を繋いでくれました。2023年4月には「合同会社しもかわ森のブルワリー」を設立して、2023年9月に直営店の「ビュースタンドエール」をオープンしました。数あるお酒の中でもビールを造ることにしたのは、手軽に飲めるから。札幌に住んでいて、仕事帰りに一杯飲んで帰るのが至福のひとときだったので、私

たちが造るビールでも生み出せたらと思います。先日、一周年イベントも開催し、多くの方々が駆けつけてくださって、嬉しかったですね。

店名の由来は、農家さんが作ってくれたものへのエールを送れるという思いから名付けています。店舗をオープンするまでも、たくさんの方に応援していただいたので、それに応えたいという思いを提供したいという思いも込めました。

今後は、ビールの製造過程で出る麦芽粕を自家用したり、ホップを自家栽培したりしたいですね。下川町が60年以上続けてきた循環型森林経営の考え方も共感して移住を決めた部分もある中で、町が進めてきた取り組みに学びながら、今後も着実にビール造りに取り組んでいきたいです。

財団の活動内容

「一般財団法人しもかわ地域振興機構（通称・しもかわ財団）」では、地域内外の多様な人々とともに「つなぎ」「つくる」「つくる」を行動指針として活動を行ってまいります。

今月は、活動③「つくる」を紹介いたします。

活動③「つくる」

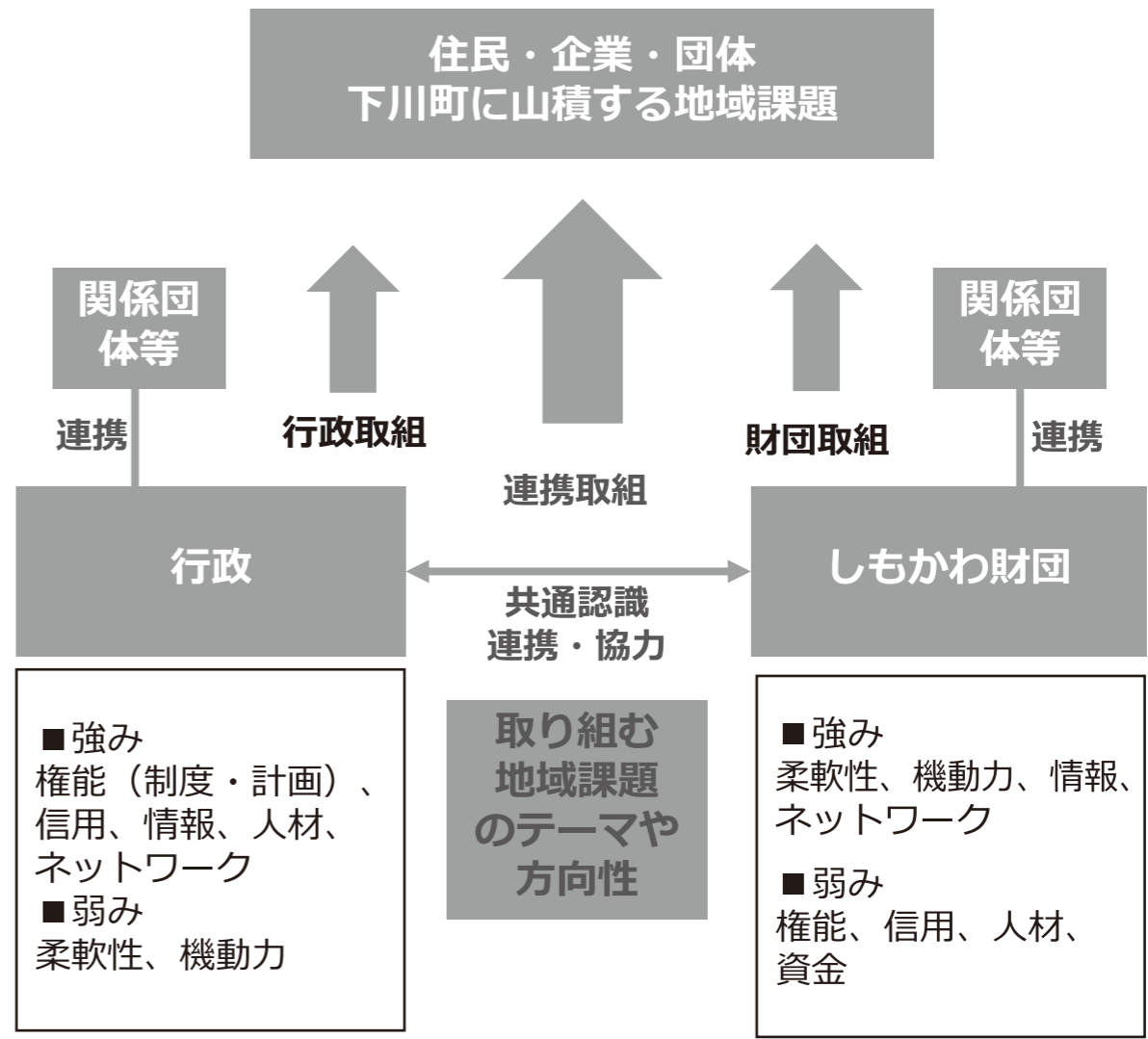
行政としもかわ財団が取り組む地域課題のテーマや方向性の共通認識を図り、地域課題を解決する。

行政の強みである「権能（制度・計画）・信用・人材」としもかわ財団の強みである「柔軟性・機動力」を相互に補完しながら、「関係団体なども連携し、下川町に山積する地域課題の解決に向け取り組みを進めます。」

（イメージ図参照）

しもかわ財団の活動紹介  
つなぎ・ささえ・つくる

活動③「つくる」地域課題解決事業



お問い合わせ  
総務企画課企画調整係  
☎ 4125111 内線232 ☆ 41251102  
しもかわ地域振興機構（通称・しもかわ財団） ☎ 413511